

開会

1 開会

○事務局（植月） 定刻がまいりましたので、ただいまより、平成27年度第1回岡山市基本政策審議会を開催いたします。開会に当たりまして、越宗会長に御挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

○越宗会長 皆さん、おはようございます。今日は大変お忙しい中を、しかも朝早くからお集まりをいただきまして本当に御苦勞様でございます。

本日は平成27年度第1回目の審議会ということでございます。この審議会は昨年12月18日に総合計画の策定に向けて審議をスタートいたしまして、通算して今日で3回目ということになります。前回の3月24日には「人口減少時代における都市のあり方」をテーマに皆さんからいろいろと御意見を頂戴いたしました。本日は「岡山の活力の創造と調和のとれた都市づくり」をテーマにしまして、産業・経済等の分野、都市・交通分野、さらに環境分野、以上3つの分野につきまして、いかに活力のあふれる街をつくっていくか、また、持続可能で調和のとれた街を築いていくかという観点から皆さんに御意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

一応、今日の審議の予定時間は12時まで2時間半ということでございます。ただ、申し上げましたように3つの分野、今日は委員さん全員御出席でございまして、ちょっと早めに退席なさる方もいらっしゃいますけれども、単純に計算しましても、2、3分の御意見をいただいても2時間半は十分費やしてしまうだろうと思っておりますので、できるだけ予定時間内に終了したいと思います。私がタイムキーパーを務めますけれども、皆様にもいろいろと御協力を賜りますようよろしくお願いをいたします。

それでは、どうぞよろしく申し上げます。

○事務局（植月） 続きまして、本日の委員の皆様の出席状況ですが、本日は委員の皆様全員の御出席をいただいておりますので、当審議会は有効に成立しております。

申し遅れましたが、本日の司会を務めさせていただきます総合計画課課長補佐の植月でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、本審議会設置条例第6条第1項により、本審議会の議事運営につきましては越宗会長をお願いいたします。

○越宗会長 それでは、会議次第に沿って議事を進めさせていただきます。着席して進め

させていただきます。

まずいつものように、議事に入ります前に、傍聴の取り扱いについて事務局から説明をお願いします。

○事務局（植月） 今のところ傍聴希望者はいらっしゃいませんが、特に支障がなければ、本審議会を公開といたしまして、この後、傍聴希望者が来られた場合は、傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでございましょうか。

○越宗会長 いかがでしょうか。本日の審議につきましても、特に支障になる事由はないと思われまますので、本会議を公開にしたいと思いますが、それでよろしゅうございませうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、本日の会議の傍聴希望者には傍聴を許可したいと思いますので、よろしく願いいたします。

3 協議事項（1）「岡山の活力の創造と調和のとれた都市づくり」について

①産業・経済・雇用、観光・交流、農業

○越宗会長 それでは、協議事項に入りたいと思います。まず、協議事項（1）の「岡山の活力の創造と調和のとれた都市づくり」につきまして協議したいと思います。まずは、資料の説明を事務局をお願いします。

○事務局（門田） 総合計画課の門田でございます。資料を説明させていただきます。恐れ入りますが座って説明させていただきます。

お手元に資料1、2、3とあるかと思えます。まず、資料1でございますが、これは今までお示したものと大きく変わっているものではございません。微修正をしておりますが、基本的には長期構想を今年度末に策定したいと考えておりまして、それに向けて、この審議会におかれましては11月に答申をいただければありがたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

資料2をごらんください。当面の審議会の審議テーマをお示ししております。前回3月には「人口減少時代における都市のあり方」、本日は「岡山の活力の創造と調和のとれた都市づくり」ということで御議論いただきます。次回は「市民生活の向上と岡山の担い手づくり」というテーマで御議論いただく予定にしております。

この3回で市政全般にわたって一通り御審議をいただいたかたちになりますが、そこでいただきました委員の皆様からの御意見を踏まえながら、また、一方で今、市の執行部においても総合計画に何を盛り込むべきかという検討をしているところでございます。その

過程で浮かび上がってきた課題でございますとか、考え方等も材料としてお示しできるものは提示させていただきながら、この重点課題に的を絞って、より深い議論をお願いできればと思っております。そして、それを9月以降の答申案の審議につなげていただければありがたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

それでは本日のテーマでございます「活力の創造と調和のとれた都市づくり」に関してですが、資料3が3つに分かれております。資料3-1、3-2、3-3とありますが、早速、資料3-1から簡単に説明をさせていただきます。いつものようにデータの右下に1、2、3と番号が振っておりますので、これを便宜上ページという言い方をさせていただきます。

1枚裏をめくっていただいて、3ページをごらんください。岡山市の産業構造でございますが、卸売・小売業が事業所数、従業者数では一番大きくなっているということで、商業中心の都市ということでございます。注目すべきは、従業者数のところの2番目に医療・福祉が12.8%ということでウエイトが大きくなっております。

4ページをごらんいただきましても、主要な、ある程度従業者数がある業種の中では、やはり医療・福祉が特化係数では6位ということで、ウエイトが高くなっているということがここでも確認できるかと思えます。

5ページをごらんください。これは総生産額、生産額ベースで見たものでございますが、岡山市は全国に比べますと製造業のウエイトが低くなっております。岡山県と比べますと、卸・小売、金融・保険、この辺りが突出しているというかたちになってございます。

飛ばしまして、9ページの下の地図をごらんください。卸売業でございますが、この周辺の地域におきましては、岡山市は広島市に次いで2番目ということでございますが、ただ、広島とは3.3倍の差がありまして、卸売機能という面では広島とは大きく差がついているということでございます。

10ページをごらんください。小売業につきましてもやはり広島に次いで2番目ということでございますが、こちらはだいたい都市の人口規模と見合いというかたちになってございます。

11ページでございます。製造業でございますが、事業所数、従業者数、一番大きいのは食料品製造業が占めております。ただ、12ページをごらんいただきますと、製造品出荷額のベースでは、印刷、飲料・たばこ・飼料、ここら辺りのウエイトが高くなっております。

時間の関係で飛ばさせていただきます、26ページをごらんください。観光入込客数ですが、上側のグラフの青い線が岡山市の観光入込客数でございます。昭和47年の山陽新幹線岡山開通時に約640万人の人が訪れて、これがピークになっております。第2のピークが昭和63年の瀬戸大橋開通のときでございます。現在、平成25年でいきますと440万人ということで、ピーク時の7割程度にとどまっているということでございます。

後楽園・岡山城の入場者数を見ますと、後楽園もかつては100万人を超えておりましたが、その後ちょっと停滞気味でございまして、築庭300年の年にはいくらか数が増えてお

りますが、近年では 60 万から 70 万の間ということです。また、岡山城につきましては築城 400 年の年がピークになっておりますが、最近を見ますと 20 万人台というようなかたちになってございます。

28 ページをごらんください。全国の主要な城郭の中で、48 城郭中、岡山城は 19 番目の入場者数ということになっております。それから、後樂園の方は兼六園とか偕楽園に比べるとかなり差をつけられたかたちになってございます。

29 ページをごらんください。訪日外国人旅行者数でございますが、これは平成 23 年の東日本大震災の影響を除きますと長期的には増加傾向でございます。内訳としては、韓国、台湾、中国などのアジア系が大半を占めております。

30 ページをごらんください。右側に岡山市の外国人宿泊者数がございますが、このグラフの動きは先ほどの訪日外国人旅行者数の動きと同じかたちになってございます。

31 ページをごらんください。岡山市のコンベンションの開催件数は着実に増加をしております。参加者数もそれに伴いまして、多少変動はありますが、増加傾向でございます。

32 ページをごらんください。コンベンションの内訳でございますが、スポーツ大会が全体の 3 分の 1 を占めております。これに次いで医療・保健、教育研究、この 2 つを合わせますと大体半分程度になるということでございます。

飛ばさせていただきますして、35 ページをごらんください。岡山市の農業でございます。農家戸数は全国の市町村で第 3 位、経営耕地面積は全国の市町村で 14 位ということで、全国有数の農業都市であります。作付面積を見ますと、水稻のほか、麦類、果樹、野菜が続いているということでございます。

36 ページをごらんください。農業の就業人口でございますが、これは平成 12 年に 1 万 9,000 人、17 年に 1 万 6,000 人、22 年に 1 万 1,400 人ということで、急速に減ってきております。また、高齢化率の方も平成 22 年を見ますと岡山市は 72.2 パーセントということでございます。

その下の 37 ページをごらんいただきますと、20 歳代 30 歳代の若い人で農業をしている人がほとんどいないということが見て取れるかと思えます。

飛ばさせていただきますして、42 ページをごらんください。新規就農の状況でございますが、岡山市の就農サポートセンターを訪れた相談者の数でいいますと、平成 25 年は 118 の方がいらっしゃいました。これが就農に結びついたのは、右側を見ていただきますと、青いところになります。平成 25 年は 7 の方が就農に至っておりまして、就農サポートセンター以外で新規就農された方を含めても 25 人ということでございます。

45 ページをごらんください。地産地消に対する岡山市民の意識ということで、農産物の直売所・産直市を利用している人が岡山市民の約 70 パーセントということでございます。岡山産の野菜・果物に安全・安心のイメージを持っていらっしゃる方はだんだん増えてきておりまして、25 年には 60 パーセントということでございます。

続きまして、資料 3-2 の都市・交通に移らせていただきます。

2ページをごらんください。昭和 51 年と平成 21 年とを比べていただきますと、市街地が大きく拡大をいたしております。

4ページをごらんください。これに伴いまして、人口集中地区、DID 地区というものが増えてきております。昭和 35 年には 15 平方キロぐらいであったのが、平成 22 年には 80 平方キロ以上ということで、面積は 5 倍以上に拡大しております。これに伴って、人口集中地区に住む人の数も 17 万人から 48 万人程度ということで 3 倍近く増加をいたしております。

ただ、反面、DID 地区の人口密度の方は、かつて 1 平方キロ当たり 1 万人を超えておりましたが、これが下がってきておりまして、近年は 6,000 人程度でおおむね横ばいで推移をいたしております。

8ページをごらんください。これはもう皆様よく御存じと思いますが、岡山の中心部は 2 極構造になっておりまして、岡山駅の周辺エリアと岡山城・後樂園・表町などを中心とした旧城下町エリアの 2 極があるということで、その回遊性の向上が課題になってございます。

10 ページをごらんください。中心市街地の人口でございますが、左側が国勢調査、右側が住民基本台帳ということで、まず国勢調査では平成 12 年が底です。住民基本台帳人口では平成 14 年が底になっておりますが、その後は人口が増加してきております。

その下の 11 ページをごらんください。中心部でのマンション供給に伴いまして、若い世代、子育て世代等の年齢層が増加してきているということでございます。

14 ページをごらんください。中心市街地の商店街でございますが、上側が歩行者通行量の推移でございますが、減少傾向でございます。下側の空き店舗率を見ていただきますと、駅前商店街がかつては非常に高い空き店舗率だったのですが、近年、空き店舗率が減少してきております。反面、表町は南部・北部とも空き店舗率が増加傾向になってございます。

17 ページをごらんください。中山間地域、具体的には旧建部町、御津町の地域でございますが、この中山間地域では若い人たちが流出しておりまして、高齢化率が建部地域では 37.9 パーセント、御津地域では 31.9 パーセントということで、岡山市の 21.5 パーセントと比べて著しく高くなっております。

19 ページをごらんください。今度は交通の関係のデータでございます。通勤通学時における自家用車の交通分担率が岡山市は指定都市の中で 3 番目に多いということでございます。

20 ページをごらんください。公共交通の状況でございますが、まず、JR は比較的順調に伸びております。山陽本線も近年は増加傾向にありますし、瀬戸大橋線、赤穂線辺りも伸びてきております。ただ、津山線などは減少傾向になってございます。

22 ページをごらんください。今度はバスでございます。バスの方は長期的には減少してきております。特に平成 20 年に路線の再編等がありまして大きく落ち込んでおりますが、その後は比較的横ばい傾向になってございます。

24 ページをごらんください。路面電車でございますが、平成 22 年に 9,131 人まで落ち込んでおりますが、その後、23 年以降は 9,600 人から 9,700 人程度をキープしているという状況でございます。

その下の 25 ページをごらんください。自転車でございますが、岡山市は自転車単独で見ると指定都市の中で 3 番目に自転車利用が多いということでございます。ただ、満足度は低いというのがその下に出ております。

時間の関係で資料 3-3 に移らせていただきます。めくっていただいて裏側の 3 ページをごらんください。岡山市の二酸化炭素の排出量でございますが、2009 年以降、増加してきております。特に、家庭部門、業務部門が他部門に比べて増加傾向にございます。

4 ページをごらんください。岡山市の市民 1 人 1 日当たりのごみ量でございますが、これは家庭ごみ有料化の実施に伴いまして平成 21 年度に大幅に減少しております。ただ、その後は横ばい傾向にございまして、指定都市の中では少ない方から 11 番目、だいたい真ん中というところになってございます。

飛ばしまして 6 ページをごらんください。汚水処理人口普及率ということですが、特に下水道の普及率が汚水処理人口普及率の大半を占めておりまして、全国が 77 パーセントの下水道普及率に対して、岡山市は 64.6 パーセントにとどまっているという実態がございました。

7 ページをごらんください。児島湖の水質です。かつて、平成 10 年度には全国のワースト 3 位に入っていた時期もございました。近年は大体、ワーストの方からではございますがほぼ 10 位台となっております。右側の数値を見ていただきますと、一応改善傾向にあるということでございますが、環境基準を満たすにはまだ至っていないという状況でございます。

以上、駆け足で大変恐縮でございますが、資料の説明を終わらせていただきます。

○越宗会長 ありがとうございます。本日の議論のテーマに関連した資料を事務局から説明していただきました。

それでは、これから皆さんに御意見をいただきたいと思いますが、事前に、お手元にまとめてあると思いますが、今日の 3 つの分野の御意見とポイントを頂戴しております。これをどこか記録をしたり報告されたりしながら御意見をいただきたいと思います。

まずは時間の経過を見ながら進めていきたいと思いますが、まず、第 1 の分野、産業・経済・雇用、観光・交流、農業分野、これにつきましては皆さんから直接御意見を頂戴したいと思います。では阿部典子委員さんから順番にお願いします。

○阿部典子委員 私の方で観光と農業・耕作放棄地の 2 点について御意見を述べさせていただきます。

私たちは表町で仕事をしているのですけれども、先ほども御説明いただいたように、や

はり外国人の方ですとか観光されている方が多くなったなど感じます。そこで、路面電車の乗り方がわからないとか後樂園にはどう行ったらいいのかわからないというような、ちょっと困っていらっしゃるような方たちも見受けられるので、そういう意味で外国人にも分かるサインであるとかホスピタリティの強化は重要になってくるのかなと思います。

あと、今はフェイスブック等いろんな発信の媒体もありますので、まめに外国語で発信する、日本というよりは岡山を目指して来てもらえるというような観光の仕方を考えてもいいんじゃないかなと思います。

農業については、私たちは今、御津や建部や中山間地に行くこともとても多いのですが、やはり耕作放棄地はとても多いです。同時に、岡山の野菜を求められているお客さんも流通業者も多く、岡山の野菜をもっと食べたいとか出したいというような方々や業者さんのお話もうかがうことがあります。ただ、先ほどもお話にあったように、農業従事者の高齢化率がもう 72 パーセントを超えているという状況の中で、もう少し生産性を高めるというようなことを考える必要があるんじゃないかなと。

同時に、新規就農者として入りたいと思っていられっしゃる方も多いだけけれども、実際には農業をしていくまでに結びつかないというような説明が先ほどもあったかと思いますが、そういう、血縁ではない跡継ぎ、継げるような方法、そういう支援ができるといいのかなと思っています。簡単ですけども以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。

○阿部宏史委員 産業振興のポイントは2つありまして、1つは、移外型産業などというんですけれども、要するに他の地域からいかにお金を稼ぐか、稼いだお金を地域の中でいかに循環させるかということが産業振興のポイントになると思います。これが1点目であります。

具体的にいいますと、例えば岡山市の場合は立派な総合病院がありまして医療・福祉の水準が高いといわれるんですけれども、これが住民だけのサービスにとどまっておれば大きな経済発展は生み出せないということで、地域外に対していかにサービスを提供できるかとか、あるいは外からの人をいかに引っ張り込めるか、そういったことが重要になるということです。それが医療・福祉産業の集積にもつながればさらに大きな発展を生み出すということでございます。

もう1点は、指定都市としての岡山ということを考えますと、やはり中枢性の高い医療サービス業の集積を図っていかなければいけないということでもあります。それとあわせて高次のサービス業、特に対事業者サービスですとかあるいは知識集約型の産業、そういったものの集積を図っていくことが、都市の機能や格を上げる上で重要になるかと思えます。

そのためにも重要なのが、やはり都心部を中心にした回遊機能ですとか、あるいは居住環境、交流機能の強化が必要になると思います。昨年、私も関係させていただいたユネス

この世界会議を開きましたけれども、そういった世界レベルの会議、そういったものの入り口等を通じて岡山の知名度を国内外に広めていくといったことも重要ではないかと思えます。

○池田委員 行政と議会は両輪ということをよくいわれているんですけども、その中に町内会を入れていただいてトライアングルというものでいいんじゃないかなと思います。

それから、産業につきましては、1次産業として農業、県産のブランド米の普及体制、それから六次産業の研究投資のこと。これが要するにお米を皆さんつくられても、いくらいいのをつくってもユーザーの方が値段をつける、自分でつけられないというのが一番欠点であろうかと思えます。ということで、耕作放棄地が多くなっているということについては、やっぱり採算が取れないというのが一番の欠点ではなかろうかと思っております。その辺が、収入が安定すれば人が定住するというところで、人口増にもつながるんじゃないかなと思います。

2018年から生産調整が廃止されるということも聞いております。ということで、岡山県の県産米の販路拡大を図って、ブランド米、いわゆるうるち米から酒米にしていれば金額とすれば倍以上で売れるというのを私もお聞きしておりますので、これについては、行政の方からしっかりと助成、また指導をいただければいいんじゃないかなと思っております。

聞くところによれば、県はすでにそういうことをやられておられるとお聞きしておりますので、市もそれに負けないように取り組んでいただければいいんじゃないかなと思っております。以上です。

○岡本委員 データを見せていただきまして、産業・経済という点では起業支援が大事だと思います。就労者の多い分野でニーズの高いサービスに着目し、その起業を奨励する奨励金制度を設けるのはいかがかと思っております。

例えば医療・福祉の女性をターゲットにした生活関連サービス業の起業を奨励したり、学術・研究・専門技術の男性をターゲットにした情報通信業の起業を奨励したり、電気・ガス等・運輸・郵便業の男性をターゲットにした健康づくり支援業の起業を奨励するなどはいかがでしょうか。

また、本社機能移転支援も重要と考えます。東京や大阪といった地価の高いところ、あるいは不便な地域からの移転に奨励金制度を設けるなどもよいかと思えます。倉敷市が奨励金制度を設け、特に東京からの移転に倍額の優遇措置を設けるなどが発表されておりましたので、岡山市は例えば大阪や愛知、神奈川などを狙ってはどうかとも思えます。

農業という点では、若手の農業リーダーの転入を支援する、あるいは県内で育成した人材を定着するよう支援するということが重要と思えます。また、マスカットなどブランド力の高い商品の栽培の技術を持つ高齢農家などとのマッチング支援を行い、既存の農地を

生かす、技術も生かすということをしていく必要があると思います。

○梶谷委員 ざっと見ますと、医療・福祉の事業所が多い、従業者が多い、これをいかに活かすかということが1つある。そして、農業が非常に発展して農地が多いという中で、いかに残していくかということであると、命ということを考えると、医療・福祉と農業というものは結構相性がいいのではないかと。そういったところをうまく組み合わせて、安心・安全な都市というものを模索し、そういった中で臨床を一括管理して、いろんな医療産業が集積しやすい環境をつくっていく。病院等の経営統合という話もございましたが、地域の医療・福祉が本当にレベルアップしていくことで人を呼び込んだり、他地域からも医療を受けに来るといようなことをできればと思いました。

それから、医療・教育・スポーツのコンベンションが増加しているということで、交流人口、外からお金を落としてもらおうという意味で、また岡山を知ってもらおうという意味では、コンベンションをいかに活かしていくかということが大事だろうと思います。今はまだまだ一体としてコンベンションが管理されていないということなので、これを一括で管理をして、さらに地域との交流をいかに図っていくか、そういった意味で施設の稼働と、本当に今の施設で足りているのか、何が足りないのかということも検討しながら、稼働を上げながらより充実したコンベンションが複合的にできるような仕掛けづくりをしていただければいいと思います。

それから、後樂園の入場者が少ないということですが、非常に価値がある文化資産だろうと思いますし、岡山市も後樂園に限らずすぐくいろんな歴史文化資産がある。それをいかに1つのストーリーとして、一体として海外に発信していくか、そういったことが重要になってくるんだろうと思います。一度来ていただいて海外の方からどんどん発信していただくといった意味でも、交流人口をいかに増やしていくかということが産業との調和を取っていく上で、非常に重要だと思います。

○片山委員 3点申し上げます。私は第1回基本政策審議会で、日本一を作りたい、日本一が何かないだろうかと申し上げました。文化がこれからもずっと残るものではないかと考えたときに、皆様もおっしゃっていらっしゃいました後樂園と天神山周辺の美術館のある文化ゾーンに岡山市出身で日米二つの祖国を持つ画家、国吉康雄をコアにしてまとめた文化ゾーンを再構築してはどうかと思います。国吉康雄は今でいうグローバルな人材で現代そして未来の人々にも感銘を与える人物であると思います。

もう一つは近県または近くの市と連携して瀬戸内海大文化圏を構築するのはどうだろうかと思います。先日、外国人誘致へ周遊ルートの提案ということで、岡山・広島・香川など瀬戸内海側の7県で構成する瀬戸内ブランド推進連合の知事が集まる会議が岡山市内で開かれたという新聞記事を読みましてもう始まっているかもしれないと思いました。

瀬戸内海は日本で最初にできた国立公園ですので、岡山市としての存在感を示しつつ、

瀬戸内海を核にした日本一の大文化圏ができればいいなと思っています。

2番目は、日本と海外の架け橋となる優秀な留学生を増やし、人財として育成するということです。外国人留学生は、日本で就職したいという意思を持っている学生が非常に多いです。能力や意識の高い学生を、どうしてもアジアの学生になりますが、将来産業界で活躍できる人材に育てるとしたら、留学生の将来を考えて大学と産業界をまとめた地域のネットワークを作り、留学生、大学、産業界を Win-Win の関係に持っていくことを提案したいと思います。留学生は起業意欲が強いので、チャンスを与えると自ら起業する人も多いと思います。

3番目ですがもしそういう留学生をはじめ多くの外国人が岡山市に来て生活するとした場合、多文化共生社会になりますが、そこで起こる問題に対応することを考えていかなければならないと思います。

岡山市外国人市民会議がありますが、これは2005年から始まって第3期まではすでに第4期が始まるそうです。外国人市民にも暮らしやすい岡山市を目指し、多文化共生社会の実現をめざし、外国人市民の意見も反映した街づくりの提言をしている会と聞いています。外国人の目線でいい提案を出されているのを読みました。多言語化が遅いとか、情報の発信の仕方と受け取る方法の改善など毎回同じことが出ていますので早い対応が必要かと思っています。外国人が住みやすい街は日本人も住みやすい街ではないかと思っています。以上でございます。

○小松委員 3点あります。市から送られてきたデータをみて、岡山市は本当に農業都市だなということを改めて感じるとともに、農学部の教員としての責任の重さを感じた次第です。

農業振興の対策としましては、やはり若手の新規就農者の支援、あるいはそれを呼び込むということも重要ですが、人生80年、90年という中で、60歳の定年から10年、15年農業をしてはどうかと。これは先ほどお話がありましたように、健康、医療、福祉と絡んでおりますので、定年後に帰農された方々の受け皿づくりを拡大していくべきではないかと考えております。

新規就農者の場合にも、生産面だけではなく、やはり生活面ということ考えた上で定着できるような支援が必要ではないかと思っています。

地産地消の取組で、岡山に生まれ育った人が岡山市の農畜産物を誇れるようにすること、あるいは、私は岡山に住んでいますから岡山市内のホテルには泊まる機会はほとんどないのですけれども、そういうところの朝食のメニューで岡山地場野菜、岡山市産の野菜コーナーをつくるといった取組も進めていくべきではないかと思っています。

さらには、第1次産業だけではなくて、農・商・工連携、他産業との連携をもっとお互いが心を開いて提携していく必要があるかと思っています。

2番目が地場産業。これは地場というよりも地域的伝統という表現をしたいなと思って

おります。こういう産業も農業と同じように、どちらかという衰退していくような流れがあり、やはりこれは1つの文化ということで、しっかり守っていく、そういう担い手に対しても支援をしていく、担い手づくりに対しても支援をしていくことも必要だと考えております。

それから、自分の経験でもありますけれども、今年の4月で私のところに准教授の若い方が来たのですが、5月の連休に親を2人呼び、大変な親孝行をして、岡山を拠点にしまして、四国、香川や愛媛、徳島、それから蒜山といったところを2泊3日ぐらいでどんどん回った。まさに岡山にとって良い話であり、近隣にとっても交通の要衝であるということですね。

この地の利をやはり活かす、拠点となり得るといような感じでの連携づくりが必要であらうし、我々が学会を開くときも、岡山では結構参加者が多く、やはり、一番来やすい、本当に交通の便というものがありますので、ぜひその辺を活用していただきたいなということでございます。以上です。

○藤原委員 藤原でございます。私がいつも思いますのは、全国を回っていきまして、岡山というのは大変 PR が下手であると。目にするのは広島、香川の PR ばかりで、中国地方、岡山、山口も大変 PR 不足です。本当に歯がゆい思いで、電車の中とか駅のポスターを見えています。ですから、もう少し PR をしていただきたいと思っております。

そして、いろいろとやるべきリストが掲げられておりますけれども、総花的にいろいろとあれもこれもというよりも、やはり1つ、2つ、絶対これだけはやり遂げるぞというものに絞ってやっていただきたい、順位をつけてやっていただきたいなと思っております。

もう1つございますのは、私どもは仕事の関係で今、雄町米というものを大変力を入れて PR しております。一昨年は雄町米が足らなくて、うちの会社にもどうにか雄町米を手に入れることはできないかというような電話を何件かいただきました。酒米というものは高く売れるとおっしゃっていましたが、会社の近くの岡山市の高校の近くの田んぼにも、獺祭という皆さん御存じだと思うのですが、田んぼを買って、旗を立てて、獺祭のお米をつくると。そういうふうには、いろんなところで酒米が今もてはやされておりますので、雄町米というのは大変いろんな酒米のもとになるものですから、もっと PR していただけないかと思っております。

あと、地産地消という点に関しましては、私どもの会社の中では食堂で必ず出すものは地産地消のお野菜・お米・みそ・しょうゆなどを使って、岡山のものを使おうと。会社でも岡山の会社となるべく取引をしようというふうには、今、なるべくメイド・イン・岡山シティーというような感覚で取り組んでおります。以上です。

○浜田委員 岡山大学の浜田です。2点申し上げます。

1点は、女性の登用ということでありまして、岡山は非常に女性の人材が多いというこ

とをよく感じるところですけれども、実際はデータとかを拝見しますと、女性管理職の登用は企業も低いし市役所も低いようですし、岡山大学もちょっと低いような感じがいたします。実感としても、大学でも各種団体でもそうですが、女性は非常に頼りにはなる存在なのですが、何となく管理職にはしないというような雰囲気がちょっとあるのかなというように感じます。

それぞれの職場でやはり、女性を登用するといいますか、能力のある人は若手でも起用するというような意識を持つことが必要なのではないかと思います。

あと、人間関係をもうちょっとオープンでフラットにしていく必要があると思います。あまり人のことはいえないのですが、それぞれの職場で努力をしていかないと、東京とかその他の若手の優秀な人材をなかなか集められないのではないかと、というようなことを実感として考えております。

2点目は産業としての医療・福祉ということで、何人かの方が御指摘になりましたけれども、確かに医療・福祉の経済的な効果といいますか、雇用の面からも経済的な効果があるのだなと感じました。皆さん御指摘のように、医療・介護の先進都市を目指すということは十分可能性があると考えています。

少し懸念材料としては、各病院がそれぞれ拡大路線といいますか、市民病院が新たにオープンしましたし、済生会とか日赤も、それから岡大もそうですが、かなり拡張といいますか、病棟の改築とかをやっております。来年はまた済生会の改築、新規オープンとか、川崎病院のオープンとかが予定されています。

実は病院関係者は若干危機感がございまして、少し供給が過剰になっているのではないかと、といったような危機感もございまして。それは具体的にはこれから2025年に向かって高齢者が増えますのでどうなるかというのは、少し微妙ですけれども、やはり各病院が共存共栄できるようにしないと、これだけの雇用者もいるということもありますし、一番は患者さんに迷惑を掛けるということもありますので、梶谷委員さんが臨床を一括管理しては、とおっしゃいましたけれども、やはり全体的なマネジメントといいますか、そういうものが必要になるのではないかと思います。

要するに、必要なサービスは何なのか、例えば、急性期の病床が少し過剰であるとすれば、リハビリテーションとか、あるいは介護といったところを増やしていくとか、そういったことをみんなで、それこそ一括管理といいますか、全体で考えていくということがこれから必要なかなとも感じました。以上でございます。

○高旗委員 私からは2点、お話をさせていただきます。

1点目は、安全・安心をキーワードに、大都市圏に所在しております企業本社機能の移転誘致を促進することが必要ではないかと思います。

先ほど来、さまざまに御意見が出ておりますが、やはり、交通の要衝という地の利は最大限活かす得るのではないかとということと、気候風土の点からいいたしても非常に安定し

ておりますし、聞くところによりますと、日本中にある原発から半径何キロで円を描いた場合にほとんど覆い尽くされてしまうらしいのですが、唯一空白地帯であるのが岡山市だという話もうかがっております。そのようなことも考えた場合に、ある種の安全・安心という最大限の地の利が活かし得るのではないかと思います。そのことが若者の起業支援とも結びつけられていくと、なお良いのではないかと思います。

2つ目は、農業都市岡山についてです。このさらなる発展を支える施策の充実をぜひお願いできないかと思います。それは、地産地消ということと同時に、岡山市産の食材を全国展開していくということだろうと思います。

その点で気になりますのが、農業就労人口が非常に高齢化し、若い世代がおられないということや、耕作放棄地がものすごく増えているということです。どのような耕作放棄地、以前は何をつくっていた場所なのかということが個人的には知りたく思います。水田が多いのだろうとは想像しますけれども、それでも、以前何をつくっていたところが放棄されているのか、ちょっと気がかりなところです。

35 ページに「農業の特徴」ということで作付面積の表が出ておりまして、私も農作物は全然詳しくないのですが、麦類のところ「二条大麦」とあって、二条大麦って何だろうと思って調べてみたら、ビールの原料なのだということがわかって、ビールの原料がなぜこんなに多いのだろうと思ったら、万富の方に大きなビール工場があるということがわかりました。

先ほど PR 不足というようなことも言葉として出てまいりましたけれども、周辺にあるそうした農業を活性化していくということが、観光資源としても活用し得ることにつながるのではないかと思いますときに、そうした目線で農業というものを見ていくことも、とても大切ではないかなと思いました。以上です。

○清板委員 清板です。2点考えてきました。

1つ目は、資料の 32、33 ページなどにあり、また、ほかの先生方も御指摘がありました。コンベンションの誘致ということです。岡山は本当に全国的に見ても交通が大変至便なところでありまして、人が集まりやすいところでもあります。

普通、学会に参加しますと旅行代理店の広告が入っておりまして、オプションツアーでありますとかホテルの案内などが、そんなに十分ではない、かゆいところに手が届かない範囲のものが封入されているというのが大体现状です。学会に参加する方たちはそれぞれの領域の中で主導的な立場にあったり、また、下にこれから伸びていく若い方たちを抱えている方たちでもあったりしますし、これを機会にしてそういった方たちに岡山の快適さ、便利さ、親切さといったものをアピールするのによい機会ではないかと思います。

学会は複数の会場を使わなくてはならないので移動手段が必要であるとか、学会には食事であるとかそういったものが必要であるので、食事の提供機関の明示が必要であるとか、また、学会にはその学会で行われることの記録であるとか作成であるとかそういったもの

をしてくれる業者を必要としたりします。学会を運営する場合にはそういった業者を開催する地区で、自分たちで探すというようなことをしています。こうした学会にまつわって生じるいろいろなニーズをセットアップするということも、ギルドというのでしょうか、そういったものをセットアップするような役割を市の方で提案していくというのはどうかと考えます。また、そうした企業と連携するというのも考えられるのではないかと思います。

2つ目が、これも既に皆さん多く御指摘がありましたが、就農の問題です。就農については、若年のこれから就職を探そうとしている若い学生たちに対して、大学生たちの就職説明会などでは大手企業などが目白押しに並ぶわけですが、就農についての収入・住居・老後などの生涯設計を明示した学生たちへの案内とかそういったものも必要なのではないかと思います。

また、女性の活用というのが話題になりますが、女性の活用のときに必ず、管理職に女性をとというようなことが出てくるわけですが、管理職にだけではなくて、従来男性が中心であるのは当たり前とされていたような業務がまだまだたくさん発掘できるわけですが、そうしたものの女性の登用というか、女性への案内というか、そういったものもまだまだ余地があるのではないかと考えております。以上です。

○杉山委員 3点申し上げたいと思います。

1つは、選択と集中ということです。総花的にいろんなことを手掛けても無理だろうと思いますし、行政でできることも限られているので、一体何をやるかというところを考えるべきだと思います。前回の会議で申し上げたのですけれども、やはり、企業誘致などが簡単にできればいいのですけれども、そんなに右から左へ岡山に大企業が本社を移してくれるかという、そう簡単にはいきません。私はやはり着実に、岡山のオンリーワン、ナンバーワン企業を探し出して、そこに対する助成をするようなことを考えるべきだと思います。

例えば岡山のあるパン屋さんがインドネシアに進出し、インドネシアのパンの味をすっかり変えてしまいました。インドネシアのパンは岡山の人が作り上げて品質改良をしたということです。過去一般的に地域企業の発展というのはローカルから東京へ出ていってナショナルになってそれからグローバルという LNG 型だったのですが、この会社はローカルからグローバル展開をする LG 型になっています。21 世紀の今日 LG 型が相応しいのではと考えています。

恐らくそういうポテンシャルのある企業、しかもこの岡山のパン屋さんは若い経営者なので、そういう方たちを何らかのかたちで支援をする、あるいは少なくとも、それを市が取り上げ、世の中に知らしめるということだけでも相当価値があると思っています。

2番目に、海外の都市との連携です。いろんなところと提携を岡山市はされていますけれども、サンノゼとの提携をもう1回ちゃんと見直しをしてほしいと思っています。なぜ

ならば、これからサービス化というのは非常に大切でICTはその中核の技術だと思っています。サンノゼなどシリコンバレーが強いのはICT技術の要因が大きいと思います。日本では非常に影響力のある某先生がつくられた「ものづくりに対しての考え方」とそれに乗ったNHKの『プロジェクトX』で日本は何となく「ものづくり大国」というふうに国民全員が考えてしまっています。多分21世紀はサービス型、しかもICTを中心としたサービスを伸ばしていく必要があると思っています。そういう意味でサンノゼというのは大切なパートナーになるのではないかと考えています。

ちなみに、岡山にはジョルテという会社があります。岡山理科大の出身者がつくった会社で、経営者は30代です。全世界で2,000万以上のダウンロードを受けているような、そういうサービスを提供している会社が岡山に既にあります。そういう会社をぜひ何らかのかたちで支援、少なくとも表に出してあげるということを考えていくべきではないかと思っています。

3番目に観光の強化ということですが、B&Bの推進を進めたらどうかという提案です。イギリスに行くとベッド・アンド・ブレイクファースト(B&B)という非常に安い値段で一般の家庭に泊まり込めるような簡易宿泊所がいっぱいあります。ぜひ、岡山こそそういう安心・安全で風光明媚なところにベッド・アンド・ブレイクファーストを推進していただきたいなと思っています。

確かに世界からコンベンションなどで岡山に人がいっぱいいらっしゃるということは歓迎すべきでしょう。しかし、私は正直いうと本当に恥ずかしい経験をしました。ある非常に著名な方を岡山にお連れしてホテルにお泊めました。実はそのホテルは英語の話せる方がほとんどいなかったのです。これでは通常のサービスだけでなく緊急事態には対応できません。つまり、岡山はそれぐらいサービスの底が浅いのではないかと思います。表面的にはいろんなことをいっているのだけれども、では岡山のホテルで何人英語が話せる人がいるのか、24時間365日英語対応可能なホテルは岡山に一体何軒あるのか。英語でなくて韓国語とか中国語でどうなっているのか。正直なことをいうと、岡山は観光の「カ」の字も語れないぐらい相当遅れているのではないかと思います。だから、観光を促進するためには相当な意識改革をし人材育成をしていくことが必要ではないかと思っています。

そのために行政は何をするべきか。勿論行政のできることは限られていますが、少なくともちゃんとやっているところを褒めてあげる。調査をして、ちゃんとここは英語とか対応できるとか、24時間365日対応できるという認定証を与えるだけでもいいのかもわかりません。観光は実はなかなか難しいなというのが正直な実感です。

○塩見委員 私は、岡山の活力を創造するという意味で、若年層の雇用を増やして定住を促進することが必要であると思っています。山陽新聞で見ましたが、岡山空港の南、工業団地に県と協働で岡山市も開発を進めるということですので、そのために企業を誘致していただきたいと。

それから、本社機能はなかなか移転が難しいのですけれども、交通の結節点、非常に便利だということを活かして、広島には支店が非常に多いとお聞きしていますが、岡山に支店を誘致していただきたいと思っております。

それから、やはり岡山に来てくれる人を増やして経済の活性化を図るという意味で、昨年 ESD が開催されてたくさんの方に岡山に来ていただきましたが、そして資料でもコンベンションの機会等、規模等もだんだん大きくなって増えておりますけれども、さらに力を入れてほしいということと、観光が後樂園と岡山城だけではなかなかという面もありまして、吉備津彦神社、吉備津神社、高松の造山古墳とか総社の国分寺、そういうものを含めた観光の広域化を図って、岡山にぜひアジアからの観光客を増やす。やはりアジア諸国の方が多くとお聞きしましたので、そちらへ向けて集中的なピーアールをして観光客を増やしていったらどうかと思います。

それから、食料自給率が 40 パーセントで非常に低い中で、農業を絶やすということはだめなので、お米・小麦を中心とした農業ですけれども、私は実は梨とかブドウの産地でありますところに住んでおります。お米だけでは食べられないですけれども、梨とかブドウをつくっている農家は後継者が育っておりますので、そういうふうな、商品として売れる果物とかそういうものをブランド化して、食べていける農業を目指してほしいと思います。

それから、地産地消が 60 パーセントと資料に出ておりましたけれども、さらに地産地消を進めていく、そして農業を支えるということが必要であると考えております。以上です。

○泉副会長 私の方からは3つでございます。

1つのポイントとすると、アドバンテージを生かさない方法はないでしょうということ、梶谷委員さんや浜田委員さんがおっしゃいました医療に関連しましては重複しますので説明は割愛します。まもなく法律ができるようでございますので、その辺もきっかけになるのではないかなと思われま。

事業の質を高めるということで、ベンチャーを促す政策というのはいろんなところでやっていますけれども、なかなか即効性がないというのが実際としてあって、本当は事業の質を高めて雇用を確保し内需を拡大するためには三位一体の政策が必要ではないかと。すなわち、起業促進することと事業再生を進めることと事業所を増やすということ、これを三位一体じゃないとなかなかうまくいかないと思います。

最後に、コンベンションの問題でございますけれども。市民会館の移転問題があるようにお聞きしますが、ぜひコンベンションのことも頭に置いていただいて市民会館の移転問題は決着していただきたいと思っております。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。

私も、ほとんど皆さん方にお話をいただいたところですが、大変この第1の分野は幅広いテーマですけれども、大切なのは岡山市の持つポテンシャルといいますか優位性、今言

われたことですが、これをもう一度きちんと認識して、その上で何をすべきかを考えていかなければいけないのではないかと思います。医療水準が高いとか自然災害のリスクが低いとかいろいろ優位性は皆さんに申すまでもないですけども、そうした利点を生かして、西日本におけるバックアップセンターという位置づけで企業を誘致した方が、あるいは本社機能の移転等、先ほど塩見委員さんもおっしゃいましたけれども、県との共同開発も進められる空港南産業団地辺りは大変有望であると思いますので、その成果を期待しているところであります。

それから、どなたかが PR が足りないとおっしゃいましたけれども、確かに歴史文化という点では岡山市も大変厚みがあるんですけども、なぜかもう一つ文化というイメージが岡山には薄いと思いますし、思われておると思います。いろいろ立派な後樂園周辺のカルチャーゾーンもありますし、片山委員さんがおっしゃった国吉とか、あるいは竹久夢二、そういう作品も身近に鑑賞できるという環境の中でありますから、もっともっとこれを何とかアピールしたい。

それから、来年は瀬戸内国際芸術祭が開催されますし、岡山市犬島にも注目が集まると思いますし、これとあわせてまた一つ大きな岡山国際現代芸術祭も開かれるということがあります。絶好のチャンスと捉えられまして、近隣の自治体と連携して岡山市の見どころをどんどん売り込んでいただきたい、その辺りを期待しております。

ほかにもございますが、以上にしておきます。

やはり、皆さんに御意見をうかがいますとどうしても、もう既に1時間を経過しております。第1の分野は以上で終わらせていただきます。

3 協議事項（1）「岡山の活力の創造と調和のとれた都市づくり」について

②都市・交通

○越宗会長 それでは、第2は都市・交通の分野であります。まず、都市交通のあり方とか、私はやっぱりコンパクトシティー化とか中心部周辺部を含めての公共交通ネットワークの構築等が大事であると思っておりますけれども、大体そのようなお考えを持っていらっしゃる方も何人かいらっしゃると思います。

まず、浜田委員さんに、口火を切っていただきましょうか。

○浜田委員 都市・交通の分野ですけども、都市づくりをどう進めるかというのは、やっぱり最大のポイントは市民参加といいますか、できるだけ市民参加を得ながら進めるのがいいのかなと考えています。

実は私も最近津島地区の愛育委員をやっています。ちなみに男性も最近できるということで参加しておりますけれども、非常に地区の女性の方々に助けていただいてやっています。やっぱりそういう経験をしますと、岡山はすごく地域の力が強いなということがありまして、そういう、特に女性を中心とした地域の力をもう少し街づくりに活かせないかと

いうことをしきりに考えています。

私の福祉の分野では、最近、地域包括ケアといわれていまして、岡山市でも保健福祉局が非常に頑張られていまして、出前講座とか、市役所の方がかなり市民の方のところに入っていくということをやっているやいまして、非常にそれは評価しているのですが、そういうかたちでこれからも市民の参加を求めていくと。市民とともに街づくりを進めていくというのが必要かなと考えております。

それから、都市づくりで、先ほど会長も言われたように、地方中核都市といいましょうか、岡山で東京への人材流出を食い止めるというふうにしていかないといけないということだろうと思うのですが、これまでは岡山の場合はそれがかなりできていたということで、今後どこで雇用とか生活の場をつくっていくかということ、今日もいろいろヒントをいただいているんですが、医療と福祉というのは一つの選択肢ではあると思っています。

ただ、介護はすごく人手不足で、介護福祉士が非常に人手不足になっているとか看護師の人手も足りないとかそういう問題もありまして、そういう問題と産業といいますか生活・雇用の場としての医療・福祉をどうやって組み合わせるかというのは一つ宿題としていただいて、考えていきたいと思っております。

○越宗会長 ありがとうございます。

それでは、大体交通体系とか交通戦略という部分がどうあるべきかということをお阿部宏史先生からまずお願いします。

○阿部宏史委員 阿部でございます。いろいろと都市づくり、交通の係に絡ませていただいております。私のポイントとして3つほど意見を述べます。

今、日本の都市は極めて大変な状況に直面しております。これから人口減少、高齢化が急速に進んでいくということで、特に地方都市ではこのままの状態では進展していくと例えば郊外部に高齢者が取り残されたり、インフラが非常に不十分な状態で放置されるということで、何らかのかたちで集約型の都市構造に転換を図っていかないといけないということは、これは誰もが認めるところであります。

一方で、それを具体的にどういうかたちでやっていくかは全く見えないということで、コンパクトシティーにしても集約型都市構造という言葉、最近では立地適正化計画ということが言われておりますけれども、その計画を立てる、それを実際に実行する上で、その実効可能性を担保するものがないというのが一番大きな問題かなと思っております。それを具体的にどういうふうと考えていくかが行政にとって大きな問題かなと思っております。

2点目として交通の問題で、今の森市長さんになってからいろんなことが具体的に進みつつあるように思いますが、ただ、岡山市全体を考えるとやはりまだ部分的な感が否めなくて、これから20年先30年先にいい状態になっていくのかがなかなか見えないところがあります。

やはり公共交通というのはインフラ整備にコストがかかりますし、なかなか岡山のように民間の事業者でやっていくのは難しいという点がありますので、そういった中で公と民の分担関係をどういうふうにしていくかをきっちりと考えないといけないなと思います。

もう1点、私はいつも言っていますけれども、このデータの中に岡山市内の駐車場の分布図がありまして、これを見ると本当に愕然としてしまっていて。15 ページですけれども、中心部の面積よりも駐車場の面積が多いのではないかという気がいたしております。最近、歩行者中心の都心をつくっていくということで社会実験もされたのですが、結局この駐車場というのはいろんな意味で障害になるということで、ここの適正化、適正な配置というものを長い時間をかけてきっちりと対応していかないといけないと思っております。

都心への人口回帰ですけれども、これは結局は都心部に未利用地がたくさんあって、そこに地価の下落とかいろんなことがあってマンションが乱立しているというだけではないか、そこに人が入っているということではないかと思えます。行政としては、都市部での住環境の整備、例えば緑と水の空間ですとか歩行者優先の空間づくり、そういったことも含めたかたちで総合的に整備を考えていかないといけないと思えます。

それから、周辺部では、最近よくいわれている小さな拠点づくりという言葉がありますけれども、どこに向かって集約していくのかをきっちりと計画的に考えていく必要があるのかなということでございます。ざっと駆け足で述べさせていただきました。

○越宗会長 ありがとうございます。都市構造あるいは交通戦略、さらには関連して居住環境という、幅広い御意見でございました。

阿部委員さんの御意見に関連して、そういうのでぜひ強調しておきたい部分がある、そういう方がございましたら、ぜひ。

○梶谷委員 あらためて、都市全体をどうデザインするかという中で、私も車屋なのでぜひお願いしたいと思うのは、車の空間と人の空間をしっかりと分けるという考え方が必要になってくるだろうと思えます。活力を生むのは人と人が安心して出会っていろいろな関わり合いをするところからだろうと思えますので、それが建物の中だけじゃなくいろいろなところで出会える場といったところで、車はある意味でいうと排除をした方がいいのではないのか。

そのためにも、車と人との結節点をどうデザインするか。岡山の場合は周辺部が非常に広大ですから個別交通が排除できない。個別交通と公共交通との結節点をどこにどうつくってデザインをしていくか。そういうふうなことをしていくことが非常に大事だろうと思えます。

土地が広いということでどんどん広がりましてけれども、これからは人が住むところ、また商売をするところをある程度規制をかけていく。そのために市民が一緒になってコンセンサスを得ていくための仕掛けをしっかりとやっていって、特に、これから将来そこに住

むであろう若い人がどういう都市にしたいかということをしつかりと話し合っていたいで、それへ向かってどういうふうにサポートができるかを考えていただきたいなと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。杉山委員さん、コンパクトシティーかあるいは公共交通制度に何か御意見はありますか。

○杉山委員 あまり就実大学の話をするとうよくないかもわかりませんが、就実大学の学生の入学希望者は最近増えています。調べてみると交通の便がいいという理由も大きな要因の一つです。岡山には17の大学があると言われていますが、駅から歩いて2分とか3分というのは就実だけなので優位性が高いのではないかと思います。西川原就実駅も就実の当時の経営者たちが投資をして駅を造ったわけです。

この例を一般化することは論理の飛躍があるかも知れませんが、公共交通サービスのネットワークがあれば非常に便利になるということはわかっています。大森市長はLRTとか路面電車のループ化を検討されているとお聞きしておりますが、是非思い切って実現して欲しいと思っています。そうすることで、必然的に街が繁栄し、コンパクトシティー化ができるのではないかと思います。ぜひ進めていただきたいと思います。

○越宗会長 街づくりというか、高齢者ということを考えての都市交通のあり方あるいは街づくりということで御意見を頂戴したいと思います。どなたがよろしいか。小松委員さん、何か。

○小松委員 ありがとうございます。やっぱり高齢化時代というのはもう避けられない、当たり前のことですけれども。高齢者に優しい街づくりということで、バリアフリー化を徹底であるとか、それから、各種の交通機関関係者の方々がやはり介護研修であるとかそういう資格取得をサポートしていくというようなこと。先ほど英会話の話も出ていましたけれども、こういった資格を運転手さん何名に持たせているとか、全員そういう資格を持たせているというところを評価していくというようなこと。

それから、交通弱者対策。これは旧市内にもあるのでしょうかけれども、やはり建部だとか御津だとかそういう純農村地帯だったところというのは交通弱者問題というのは必ずやってくる話。現在もそうかもしれません。デマンド何とかとかいういろんなやり方がございますけれども、既存のタクシーの活用というようなことも考えていくべきではないかと思ひます。以上でございます。

○越宗会長 清板委員さん。

○清板委員 50台、60代以降における、老後は、交通至便、通院や健康維持のための医療保険施設も近い、コンサートや美術館にもすぐ行ける、マンションに住み替えようといった意識、30代前半の、生まれてくる子供たちの子育ては、評判の良い学区に住んで就学期に備えたい、という意識から、これらに手の届く岡山の都心への志向性が高まっており、これを満たしたいとするニーズが存在しています。資料13ページはそうしたニーズを見越したマンションの建設の実情がうかがえます。8ページの中心市街地ゾーニングにある2つの地区をコアにしながらかその周辺にそうした世代は居住し、日常的な移動が行われると見込まれます。そのような中では自転車利用者にとっての自転車道、駐輪場の整備がのぞまれます。山陽本線西側には教育ゾーンもあり、若い親世代だけでなく、大学生、また卒業した若い世代にとっても、生活の根拠地となっていく可能性が大きいので、JR線をくぐる、あるいは越える、気持ちよく整備された自転車道・歩行者道があるとよいのではないのでしょうか。

また、私も先ほどの御意見をうかがっていて、市民の意見を吸い上げていくということにふと思ったのですが、居住環境とか移動であるとか転居であるとかそういったことは不動産屋が非常にニーズを把握しているということに、最近自分自身が家を探した経験から実感いたしました。

市民の声を聞き取るというか吸い上げると一言で言うと簡単そうなのですが、なかなか本当に切実なニーズを吸い上げるとするのは難しいことでもあるのかなという気がしていますが。家を探すとか引っ越しをしたいとか引っ越し屋を探すときの費用をどれぐらいで抑えたいとか、そういう切実なニーズが聞けるような場所を市の何かの局の中につくることはできないだろうかということを考えたりいたしました。以上です。

○越宗会長 高旗委員さん御意見はございますか。

○高旗委員 ありがとうございます。26ページ27ページの地図を拝見しまして、岡山の道路というのはこういうふうに環状的に見えるんだなど、今まで本当に不勉強でそんなことは感じていなかったのですが、内環状線、中環状線、外環状線というふうに三重に巡っているということを見ましたときに、何らかそういったものがピーアールできて、主に歩いて走ってということになると内環状線ということになるのかもしれませんが、何らかそういった優しい都市環境というのが見えてくるといいのかなと強く思いました。

車と人を分けるというお話が先ほど梶谷委員さんからございましたけれども、データでほかのものを見ますと、通勤通学時における自転車利用率の高さがある一方で満足度が非常に低いということ、何らかのかたちで解消していけるような歩道ですとか自転車道の整備が求められていて、健康を目指した岡山市というものがもっともっとピーアールしていけるのかなと思いました。

あと、非常に気になるのが実は28ページの橋りょうの現状というところです。恐らくこ

ういったものが、きちんと今後整備をしていかないと将来にわたって非常にコストのかかる負の遺産として、負の遺産の場合には日常的に使っているものですからメンテナンスしていかざるを得ない、そこに向けた対策が何らかのかたちで実は見えない問題として非常に重要になっていくのかなと思いました。以上です。

○越宗会長 阿部典子委員さん、市内での地域間格差、そういうきめ細かい交通施策というところはいかがでしょうか。

○阿部典子委員 私たちは日ごろ地域の高齢の方のお話をうかがうこともかなり多いのですけれども、岡山市内の福祉とか生活の状況を見ていて本当に思うのが、中山間地域である御津、建部だけでなく、準農村部の方々も、自分たちの地域での支え合いをどうやっていくかということを今本当に真剣に考えていらっしゃるんです。

実際、拠点はあります。そして拠点で何かしらをやろうというふうに前向きに考えていらっしゃる方たちは、都市部より多いのですけれども、ただ、もうそこに行く足が本当がないということで困っています。バスが病院だとか診療所に何とか行くけれども、そこで待たなければ帰れない、なのでなかなか外に出るのがおっくうになってしまうというようなことが本当に顕著に最近見ているところなんです。

そういう意味で交通施策というところでいうと、中心部と郊外周辺部の施策をある程度性質を分けて考えていただくことが本当に必要になってくるのではないかなと思っています。

中心部については先ほどもお話をされているような、都市の骨格をつくって、長いスパンをかけることになるけれども、そのビジョンの下に進めていくということが大事なんじゃないかなと。その際に、やっぱり今動いている「ももちやり」をもう少し有効に活用するというようなことも必要になってくるかなと思います。

○越宗会長 池田委員さんは、中心部ももちろんですが、周辺部についてはいかがでしょうか。

○池田委員 私事になるかと思いますが、私は周辺地域で田園地帯なんですね。ですから交通機関といっても、JR でいえば4キロ、バス停でも最低2キロはあるんです。とすると、車につきましては生活の必需品、絶対要るんですね。ですから、例えば市内に出てくるときにはまず駐車場があるかなということから考えないと中心部に来られないというのが現状でございます。

○越宗会長 岡本委員さん。

○岡本委員 健康づくりという点からも都市のことを考える必要があると思います。閉じこもりの予防ですとか孤独死の予防ということを考えたときに、空き家活用策と合わせて、そこに高齢者と学生などが同居することによって生活を活性化することと、そういう家をつくるためのリフォーム業者さんの起業を支援するとか、そういうことを連動して考えるといいと思います。

また、車の使用が多いというデータから、ノーマイカーを支援するというので、閉じこもり予防にもなりますけれども、例えば生活用品宅配の業者を奨励し、近所の公民館まで運んでみんなで持って帰るような、生協などはそのような仕組みもありますけれども、そういう仕組みや、会社ぐるみでウォーキングの通勤を奨励するなど、そういったことも必要と考えました。

○越宗会長 岡本委員さんは安全・安心の問題で橋りょうの補修についてはいかがですか。

○岡本委員 データを読んで、これは何とかしてほしいと思います。やっぱり安全・安心、原発のない岡山、晴れの国おかやまということで、岡山は安全・安心であるということが非常に強調できる売りの部分だと思いますので、そこがマイナスになるようなことは徹底して改善してほしいと思いました。

○越宗会長 藤原委員さんは。

○藤原委員 私も一番目に見えない部分での心配な点がこの橋りょうの件なのですが、少しずつ、負担が大きくなっていく程度に進めていただきたいと思います。

もう1つは、都市交通とは直接関係ないかもしれませんが、選挙がございますね。選挙のときに選挙カーが回ってきて、みんな老人が集まるんですけども、さて選挙に行くときに足がない。老人1人で住んでいて、近くの小学校まで歩いては行けない。そういう問題を抱えている、市街から少し離れている地域は大変多いと聞いております。選挙カーが来て集まるのは年寄りだけれども、年寄りは選挙に行けないと、本当に笑い話のような話ですが、今、頭が痛い問題だと聞いております。

○越宗会長 それでは、泉副会長。

○泉副会長 橋の問題はものすごく大変で、市長さんがむしろ御専門家なので、私は銀行屋として御心配しますけれども、相当お金がかかるので、単にこれだけ個数がありますよということじゃなくして、じゃあ投資はどういうふうに行っていますということをやらないと市民は安心しないんじゃないかなと考えます。以上です。

○越宗会長 塩見委員さん。

○塩見委員 私の方は、観光面からいいますと、岡山城・後樂園ですけれども、前は路面電車が番町の方へあったと聞いております。今ですと、城下で下りましても後樂園までなかなか地理的に、ちょっと歩いていくのには遠いかなというようなところもございますので、前の番町線があったぐらいのところで下りて、そしてまっすぐ行けば後樂園というふうな感じで、あそこのエリアを散策していただくというようなことを考えてもいいのではないかと。

もう1つ聞きましたのは、あそこは観光タクシーで行きましても駐車するスペースがないと聞いておまして、駐車スペースとか利用を非常に安くする、料金を安くするというようなこと。

それから、岡山駅周辺と旧城下町のエリアの回遊性を高めるということですけど、西川は、本当によそへ行ってもああいうふうにすごく水が流れて整備されているのは少ないと思うんですね。ですから、そういうところの魅力を発信するという、今、イベントが開かれていますけれども、もう少しそれを考えて魅力を高めたらどうかと考えています。

○越宗会長 ありがとうございます。

○片山委員 NPO 法人 RACDA の「グリーンモバイル都市・岡山を目指して」という本を参考にしてはどうかと思います。御存じの方も多いと思いますが、RACDA は「路面電車と都市の未来を考える会」という市民団体、NPO 法人です。1995 年に岡山商工会議所から「人と緑の都心 1 km スクエア構想」というのが出まして、これに影響を受けて、17 年前に RACDA という市民団体ができました。

公共都市交通を中心に、交通だけではなくて、街のあり方も両方あわせて 17 年間、実験をしたり日本のほかの都市の勉強をしたり、意見をいろいろ出してきたりしています。

これを見ますと、LRT とか幹線バスの件などに加え、パーソナルモビリティや電気自動車とか、あらゆる面での 17 年間にわたる岡山の公共交通機関に関する研究と実験と実行が書いてあります。非常に具体的なので、私はこれを読んで「ああ、なるほど」とか「これはちょっと難しいかな」とかいろいろ考えました。

ということで、私の意見ではないのですが、この本をご紹介いたしまして、一読していただくとまた違った観点ができてくるのではないかと改めて御紹介させていただきました。

RACDA は民間団体です。市がこの民間団体をどう活用していくかですが、市民団体・民間と、先ほども市民参加ということをおっしゃったのですが、市民団体と市と一緒に何かするという時、公平性とか市民からのクレームとか、いろいろあって簡単にはいかない事が多いかもしれませんが、必ず良い結果を残せるものがあれば、自信を持って

民間または市民団体と組み、積極的にやっていただきたいと思っております。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。もう皆さんに行き渡りましたですね。御協力のおかげで少し時間を取り戻しました。このこともどうしても言っておきたい、交通分野で御意見がございましたら、2、3は結構です。

○杉山委員 せっかくの機会なので、市長さん以下管理職がいらっしゃるの、一言だけお聞きしておきたいことがあります。私は歩くのがすごく好きで、岡山市内をあちこち歩いています。ただ、岡山の道路の歩道部分の勾配がきついに思います。他の都市の歩道部分はそこまで勾配がきつくないような感じがします。確かに勾配があれば水はけがよくなるとは思いますが、もう少し歩く人のための配慮があってもよいのではと思います。

私もだんだん年を取ってくるとあんまりこういう勾配がある道はちょっと歩き難いのです。ご御検討をぜひお願いしたいなと思います。

○片山委員 人が歩くのと同時に、自転車も割と危険で、学生、外国人の留学生ですけれども、自転車で走っていてすごくけがをするんですね。もちろん本人の走り方も大きいんですけども、やはり道路があまり自転車に向いていないというか。また、事故も1カ月に1件は必ずあります。今、杉山先生のお話を聞いて、何かそういったところで考えられることがあるかなと思いました。

○越宗会長 ほかには特にございせんか。

では、私から。提供資料によると、岡山市の中心市街地の人口は2002年を底に、増加へと転じ、当時は中心部には少なかった30～40代の住民層も分厚くなっています。コンパクトシティーの考え方からも、この「都心回帰」の流れを継続すべきであると考えます。米国で最も住みやすい都市とされるポートランドでは、街の魅力に引かれて若い芸術家らが移住してきているといいます。例えば、西川沿いに若手のクリエイターやデザイナーが居住し、緑道公園を作品発表の場にするようなまちづくりを目指してはどうでしょうか。そのためには、緑道公園から車の乗り入れを規制することも考えるべきだと思います。

また、岡山駅周辺エリアと旧城下町エリア間の回遊が課題となっています。中間点となる西川緑道公園辺りをにぎわいの核とする必要性が長く指摘されてきました。市や市民グループがイベントなどを開いていますが、まだ十分に定着しているとはいえません。来年以降、旧城下町エリアを中心に岡山国際現代芸術祭が開かれることや、原研哉さん、水戸岡鋭治さんら、日本を代表する岡山市出身のデザイナーがいらっしや、協力を仰ぎやすいこともぜひ生かすべきだと思います。

交通面では、周辺部まで含めた公共交通ネットワークの構築を打ち出すべきだと思います。岡山商工会議所が1994年に「路面電車の環状化」を提言しましたが、実現はしていません。

コンパクトな拠点同士を交通・情報ネットワークで結び、さらに各拠点と周辺部を公共交通機関で結ぶ方策を考えていただきたいと思います。路面電車の環状化や、吉備線の LRT（次世代型路面電車）化は、目指すべきコンパクトシティの象徴になるものです。巨額の投資が必要ですが、これも米国のポートランドというお手本があります。ぜひ実現してほしいと思います。

3 協議事項「岡山の活力の創造と調和のとれた都市づくり」について

③環境

○越宗会長 それでは、最後の3の環境分野について皆さんの御意見をうかがいたいと思いますが、ここで、梶谷委員さんがもうまもなく退席になるので、どうぞ、御意見だけ。

○梶谷委員 資料を見せていただいて、岡山は非常に自然が豊かだなど。身近に貴重な野生生物もいるということで、産業面との兼ね合いで、これがどんどん消えていくという非常にもったいない部分がありますので、この貴重な自然をどう残していくか、そしてそれを子どもの段階でいかに触れさせて、せっかく ESD を推進しておりますので、人間も生命体であるという視点から、自然の保護ですとか利用というものをしっかりと考えていくことが重要であると思いました。以上でございます。

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、池田委員さん、どうぞ。

○池田委員 今日の資料の中で児島湖の水質とか地球温暖化の現状と予測、岡山市の二酸化炭素排出量などを見て、思いましたが、今、町内会におきまして、資源ごみで家庭・業者を含めて天ぷら油の回収をさせていただいております。これは非常に使い道が多いわけで、天ぷら油を精製いたしまして、トラックやバスのディーゼルエンジンの燃料にする。これは全く二酸化炭素が出ませんので、これを、岡山市さんも含めて町内会も含めていろいろとやったんですけれども、まだ啓蒙（けいもう）が足りないのかなと思っておるところでございます。

これはまだ家庭排水で流されている方が結構おられます。これも回収をしっかりとるか。天ぷら油を精製したディーゼルエンジンは温度が低いんですよ。ということは温暖化対策にもつながると。二酸化炭素も全く出ないということで、非常にいいことばかりだと思いますので、これは市役所の方も町内会も含めてですけれどもしっかりと啓蒙していきたいと思っております。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。じゃあ、高旗委員さん。

○高旗委員 データを見せていただいて、岡山とほかの都市を比べた場合のごみの問題、

4ページ5ページ辺りのところになります。ごみ量を抑え、資源化率を上げることが、大都市ほど比較的实现できているようですので、そこから学ぶことは一体どういうことがあるのかなと思います。素人考えで、有料化をもっと進めるとか、分別の細かさ等が影響しているのかなと思いましたが、ほかにもいろいろな事情があるんだろうと思います。いずれにしても、そういうことを学んでいったらどうかと思います。

もう1つは、先ほど都市においては駐車場が乱立しているというお話がありましたけれども、農村においても、やはり宅地であったところを駐車場に転用してということが方々で起きている、收拾がつかなくなってきたということがあるのかもしれない。恐らく農村においても耕作放棄地が資材置き場であるとか倉庫に転用されるというようなことが起きて、いざあらためて就農を支援しようとしたり農地を確保しようとしたらすると、それが阻害されるというようなことがきっとあるのではないかなと思います。

この辺りも環境にずいぶん影響を与えることだと思いますので、ぜひそういうことについて、一定の歯止めができるのかどうなのかはちょっとわかりませんが、何らかの検討を、これから農村はますます高齢化していけばそういう事情も増えてくる可能性が出てきますので、ぜひその点を注意深く見守っていただければと思います。以上です。ありがとうございました。

○越宗会長 ありがとうございます。次は、浜田委員さん。

○浜田委員 1点目は、越宗会長がおっしゃっている自転車先進都市というんですか、これも私も非常に賛成でして、自転車先進都市を目指して、気持ちよく自転車が走れるような街にしていきたいと思うんですが。

他方、自転車に乗る人はその満足度が低いというのがあり、一方、外から見ていると自転車に乗っている人のマナーの悪さも目立つような感じもするんですね。私は岡山市は住民力が非常に強いということで申し上げたんですけども、若い学生とかやっぱり未熟ですのでなかなか話し合いは大変かもわからないんですが、そういう若い連中も入れて自転車先進都市みたいな街づくりを考えてみるとか、そういった取り組みをすれば若い人たちの教育にもなるのかなと考えます。

それから、今年のESDの国際会議がありまして、公民館を拠点にした取り組みということらしいんですけども、岡山らしい環境対策をどう進めていくのか、その辺のところをESDの成果も含めて市の方にもう少しピーアールしていただけたらどうか。というか、もうピーアールされているのかもわかりませんが、そういうお取り組みを強化していただけたらどうかと思います。

先ほども高旗委員からも御指摘がありましたけど、ごみの分別が緩いとかごみを捨てる量も少し多いようなんですけども、この辺も含めて、様々な意見をお持ちの市民の方がいますのでなかなか難しい面もあるのかもしれませんが、市としても言うべきことは言っ

ていただいて、市民と共に話し合うなかで進めていただけたらどうかなと考えます。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。では、泉副会長。

○泉副会長 塩見委員さんもおっしゃいましたが、ほかの政令指定都市に何回か伺った中で、岡山は西川のアドバンテージが非常に高いと思います。杉山先生も道路の問題とかおっしゃって、やっぱり西川の辺の整備は環境面からも都市計画面からももっともっと整備を促進されたらどうでしょうかと思います。そうすると岡山ならではの楽しさみたいなものが演出できるんじゃないかなと思います。

越宗会長さんのおっしゃったようにむしろ西川の辺は交通遮断したらどうかとか、それから市長さんも社会実験をおやりになっらっしゃるようなことがあって、特にあの地域はアドバンテージをさらにアピールするようなことができるものだと思いますから、ぜひその辺もあわせて御検討いただければなと思います。以上でございます。

○越宗会長 ありがとうございます。それでは、今度は塩見委員さんからお願いします。

○塩見委員 私の方からはお尋ねなんですけれども、二酸化炭素の排出量が家庭で増えていると資料にありましたけれども、どういう要因があるのか教えていただきたいなと思って。

○越宗会長 どうぞ、事務局。

○事務局（環境局） 環境局でございます。これはCO₂の削減の計算式のようなものがございまして、家庭系で増えているという一番の大きな原因は世帯数が増えていること。1世帯当たりのCO₂の排出量はある程度原単位としてございますので、核家族化が進んでいたり、1人暮らしの世帯が増えたりということで岡山市も世帯数が増えておりますので家庭系のCO₂の排出量が増えているという、そういう計算になっております。

○塩見委員 ありがとうございます。

やはり地球規模で考えますと非常に二酸化炭素排出を削減しないといけないんですけれども、どうしても周辺地域は自家用車がないと出てこられませんし。ですから、自家用車を規制するというのはなかなか難しい問題なんですけれども、公共交通機関を利用することを皆さんに勧めて、あるところから公共交通機関に乗って中心部へ出てくるなどで排出量を減らすということも1つ。

もう1つ、この前聞きましたのは、農政局の話でしたかね、ごみの中で、これは事業所

系から出るごみかもわかりませんが、食料の残渣（ざんさ）、廃棄物、食べられなかったパンとかお弁当とかそういうものを捨てる量が非常に多いとお聞きしましたので、そういう辺りを削減することも必要と考えております。

○越宗会長 杉山委員さん。

○杉山委員 私はごみ処理の効率化を1つだけ。私はあまり専門分野ではないのですが、実際にいろんな都市に住んでみて、岡山が一番ごみ処理は甘いというか分別をあまり要求されないと感じています。これは結局、市にコストがかかっています。見えないコストですけれども積もり積もると非常に大きいので、やっぱりもっと厳格化をして、それこそ政令指定都市で一番進んだ都市になっていただければと思います。

恐らくそうすると相当費用が浮くと思いますので、それをLRT化とか公共交通の方に回すというふうなことをぜひ御検討いただいたらと思います。たった1点だけですけれども、ぜひ御検討いただいたらと思います。

○清板委員 ごみのお話が今出ましたが、ごみというのは私たちの生活の負の部分だと思います。私は精神衛生が専門ですが、精神障害者をどう扱うかというのはその国の文化のレベルを物語るといわれます。ちょっとそれと似たようなひな形で、生活の中の負の部分であるごみを岡山市がどう扱うかというのはやっぱり岡山市の文化を物語る、象徴するものになるのではないかなと思います。

そういう意味では、今、杉山先生も御指摘がありましたが、ごみの処理の仕方について甘いと思います。紙資源の回収については、非常に紙のごみは多いですので、ごみというか資源というか、それをもう少し重点化してもいいのではないかとも思っています。

先ほど来、市民参加という話も出ましたが、例えば公募制の臨時環境コーディネーターみたいな名称の人をある程度予算をつけて、短期間で要請して、児童・生徒の教育も含めて、今持ったごみをどうするかというふうなことから、小さな子どもからの教育も含めて、市民の方の提案、平べったいところから始まってくる提案を吸い上げていくことをしたらどうかと考えます。

もう1つは、西川のお話も出ましたが、岡山は児島湖に倉敷川と笹ヶ瀬川が流れ込んで、堤防の外には旭川と吉井川が流れ込んで、岡山を流れる川が豊かであるだけに、水を大切にするとか美しい水を保全していくということは大変大切なことだと思います。それはやっぱり教育、レジャー、子どもたちが水辺で楽しむ、楽しむからこそ、水を目にして、その水が自分のおうちの水道に流れてくる水とつながっていて、その美しさを守るのは自分たち自身の日々の生活の中にしっかりつながっているんだということを教育していくということも、環境を守っていく上で必要なことなのではないかなと考えます。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。藤原委員さん。

○藤原委員 ごみの問題については、二酸化炭素排出量やごみ排出量、汚水処理普及率などについては、他都市を上回る水準を目指して、それに歩調を合わせて自然環境の素晴らしさを訴求できるような取組が有効であると思います。

また、自然との関係ですが、うちの会社は岡山空港のちょうど南側にありまして、最初にこちらに移転したときに会社が唱えたのが自然との共生。工場用地にはなったけれども何年後かには必ず周りを緑で埋め尽くそうというコンセプトの下に会社を移転いたしました。

あれから15年か20年ぐらいたちましたけれども、当時に比べましたら木は大きくなり、周りに緑が大変多くなっております。ですから、やっぱり市民の一人一人の努力が岡山市全体のものになってまいりますので、一人一人の自覚、ごみもそうですし自然の問題もそうですし、促すような政策を取っていただけたらと思います。

ごみの件ですが、先ほど杉山先生が岡山は緩いとおっしゃっていましたが、私は東京の渋谷に娘がいて、ごみ分別については、あちらは大変甘いんですね。岡山は厳しいと思っておりましたが、いろいろと都市によって違うんだなと思いました。

あとは、西川は、私が子どものころから比べるとあの辺り帯は本当に開けて。日曜日に必ず何かコンサートが催されていたり、出店が出たり、大変環境のいい場所になっております。近くに「ももちやり」もありますし。「ももちやり」がどれぐらい活用されているのかわかりませんが、結構若い方があの辺りでいろんな活動をなさっている姿を見ると、やっぱり岡山市の活性化につながるのではないかなと感じました。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。小松委員さん。

○小松委員 私自身は今、大学のプロジェクトで低炭素社会の形成なんていうのに関わっているものですから、そこから勉強を始めているんです。

環境教育というのは、やはり幼児教育とか義務教育のときからやるべきではないかなと思っています。それは、環境に対する共生とかいう意識じゃなくて、人間も自然の中の1つの構成要素であり自然の中の一部だと、ともに生きましようなんていうのはおこがましいというぐらいな謙虚な気持ちを持つ、そういう人が育っていくことを目的とするものがあります。

もう1個は、親に対する教育であると。そんなごみの捨て方をしてはだめですよとか、そういうのは子どもさんたちから親に対して言っていくという、そういう意味合いも込めております。

それから、明日、実は環境省に勉強させてもらいに行くんですけども、カーボンオフセットというのを今興味を持ってやっています。要するにCO2、炭素はゼロにすること

はできないと。努力しました、でも努力しても出す部分を何とかどこかで相殺しましょう、オフセットしましょうということで、逆にいうと、私の知っているところではお金を。

例えば、JA、農協の直売施設には実は車で来る人がほとんどなわけですね。ということはCO₂をいっぱい吐きながら買い物に来る。レジを通過した人に1回につき1円をためておいて、その店舗が市にLEDの街灯を寄贈すると。年間50万分ぐらいの寄贈をやっていくとか。

あるいは長崎の対馬市では逆にCO₂を吸収している方だということで、そこからクレジットを出して、それを売って、おたくのCO₂を吸ってあげていますよというのをそこで相殺する、そのお金で森林を整備していく。

これは逆にいうと、そういうシステムがあると考えれば、県北と岡山市の間で、あるいは岡山市内の事業所との間でのカーボンオフセットのやりとりがあれば、上流域のそういう森林資源を、川下がサポートしていくという、そういう循環型のものになっていくんじゃないかなという気がしています。

それから、廃棄物というかごみ排出量。実は私も正直なところ分別については、ここで別に議論をするわけじゃないですけども、高齢化社会になっていくと分別を厳しくするとしんどいよねというのが正直あります。だからといっていい加減にしていっていいというわけでもないんですが、そこそこのところでちょっと手を打っていただきたいなど。

そうなるかとうとうどうなるかという、悩ましい、これはどっちなんだという話になっていく。それから、もういいやとなる。包んでそこらへ放り込んでおけという話になっていく。逆にいえば、あまり厳しくすると倫理が崩れていくという、その辺の兼ね合いも我々は考えていかなきゃならないのかなということをちょっと申し上げておきたいと思います。

○片山委員 今日の説明の中に二酸化炭素排出量、家庭部門及び業務部門とありますが、家庭部門も排出量が増えているということでした。家庭では、何をどうしたらこの二酸化炭素がたくさん出ているのかがよくわかっていない人が多いのではないかと思いますので、もっと具体的に、こういうことをすると二酸化炭素が増えます。では、これをどうすればいいかというようなことも広報していただけたらと思います。

それと、今、小松委員さんがおっしゃいましたように、そういったことの教育、子どもですが、大人に対しても教育をしていく事が大切だと思います。

それから、二酸化炭素の排出というと自動車がどうしても大きな問題になってきます。先ほどの交通の中にありましたように、電気自動車やハイブリッドカーの公共交通分担率を増やしていくというようなこととつながっており、藤原委員さんが、こういう問題は全部リンクして考えていかなければならないのではないかと、とおっしゃっていましたが、本当に私もそのとおりだと思います。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。岡本委員さん。

○岡本委員 皆さんの話を聞いていて、温暖化防止ですとかごみの削減、資源化ということについては、子どものころから体験しながら歩いてみて触って感じてそういった教育を根付かせていくのが非常に重要と思いました。

例えば岡山のキーワードとしては安全というのがありますし、市民の活力があるという点では健康ということもですし、それにプラス、ここでクリーンという良さも付けて、安全・クリーン・健康岡山プロジェクトといった推進月間をつくって、そこで子どもも街を歩いているんなことをそこで学ぶし、そのときに家族だけではなく他の大人と接したり高齢者と接したりという世代間の交流ができるような機会にもして、そのような推進月間を毎年設けて、そこで市民同士がつながっていく、学んでいくというようなことをしながら意識や行動を醸成していければいいのではと思いました。

歩くということはまた、「歩く街岡山」というか、交通の問題解消の意識付けにもつながるといことで、歩くためにはウォーキングコースの整備なども必要で、いろんなことが連動していくので、そういったことを市民と一緒に考えて企画していくことが大事と思いました。

○越宗会長 ありがとうございます。阿部宏史委員さん。

○阿部宏史委員 環境分野については、地球温暖化防止行動計画の見直しと低炭素社会に向けた施策の着実な実施が重視すべき視点と考えます。対応方法としては、自家用車の利用抑制と、公共交通・自動車・歩行者優先の交通体系への転換を進めて行くべきでしょう。また、都心部を中心とする水と緑のネットワークづくりを進め、都市環境の改善を図っていくことが重要ではないでしょうか。そして、ESD 岡山モデルによる公民館や学校を拠点とする環境保全活動を推進していくべきと考えます。

岡山市というのは非常に自然環境豊かな都市であって、中国山地の里山から瀬戸内海の里海のエリアまでを含んだかたちで。これは資料の最初に書かれています。

もう1点、旭川、吉井川のような大きな河川があって、そこから用水路が市の中に張り巡らされていて、以前は下水道整備でずいぶん汚かったんですけども、最近はきれいになって、水生の生物なんかもすむようになっていきますので、私も京山のESDでやらせていただいたんですけども、こういった用水路の保全も考えていく必要があるのではないかと思います。

実はずいぶん以前に総合計画の議論に参加したときに、とある生物が専門の先生からホテルはどうかというのが出まして、そのときのキャッチフレーズで、ホテルの飛び交う拠点都市というふうな案があって、その当時はひんしゅくを買ったと覚えているんですけども、今はむしろ、自然と共生する岡山市という意味で、ホテルなんか非常にいいのではないかなという気がします。

あと、地球温暖化防止の方向性が福島第一原発のあとでかなり混迷しておったんですけども、具体的な数値目標も含めてある程度定まりつつあるので、岡山市としての具体的な目標を定める時期ではないかなと思っております。

それから、温暖化防止の対策は今日のほかのテーマであります①②と密接に関係しておりますので、その基盤になるということで、それを進めることが都市の発展にもつながると考えられるんじゃないかと思います。

もう1点。ESDですけれども、ぜひ、ESD 岡山モデルということで、公民館、学校と地域が連携した1つの取り組みとして、それぞれの地域での環境保全活動を真剣に考えていただきたいなと思っております。以上です。

○阿部典子委員 ほとんど皆さんおっしゃったことですが、ESD 活動を公民館や地域で本当に岡山市はいろいろやられていて素晴らしいなと思っています。そういったところと、環境教育施設であるとかNPOだとかもいろんな取り組みをしているので、そういうところと連携ができるというのがすごく大事ななと。

先ほども阿部先生がおっしゃったように、岡山市は山から川から海から湖から農地から、本当にたくさんの環境があるところなので、そういったところの体験交流というか、取り組みと取り組みを交流しながら体験できる、交流できる、そこで教育にもなる、もしかしたら観光の一端にもなるかもしれないというようなことも考えられるんじゃないかと思っています。

先ほどあった西川の話もです。やっぱり西川は市民が一緒に活動しながらああいったかたちでにぎわってきて、もしかしたら歩行者天国化みたいなのところもできていけば、そういう取り組みの岡山市のシンボルみたいなかたちで皆さんに見やすくアピールできるんじゃないかなとも思います。

あと、ごみの件ですけれども、やっぱり高齢化が進んできて、ごみが出しづらいと言われている方の声をよく聞きます。私自身も最近亡くなったんですけども大分に両親がいて、サポートする子どもたちがそこで片付けをしてごみが出したいんだけど、日曜日はやっていないとか土曜日はやっていないということでごみが出せないという状況があったりするんですけども、それは有料でもいいのでそういう門戸が開かれているといういろいろいいかなとも、お話をうかがいながらちょっと思ったりしました。以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。

私は、やっぱり自転車先進都市といいますか、岡山、「ももちゃり」をもっともっと活用して、これも進めることが環境対策に大変有効だと思いますし、だんだん都心から車が減って行って、その空いた空間へ歩行者・自転車向けの空間をつくっていく、そういう車に頼らない街づくりに転換していく必要があるかと思っています。

それから、皆さんもおっしゃいました ESD、昨年開かれました。これは公民館を拠点に

した取り組み、岡山モデルとして、大いに世界にアピールできたと思います。これからの岡山市が目指すべき都市づくりは、やはりコンパクトシティーにエコを加えたエココンパクトシティーといいですか、環境に優しく弱者が暮らしやすい街づくりを岡山モデルということで推し進めてほしいと願っております。私からは以上です。

今の環境分野でも結構ですし、その前にさかのぼってのあとの2つの分野でも、ぜひもう一言これを言っておきたいということがございましたら、どうぞ遠慮なく御意見を出していただきたいと思います。まだしばらく予定の時間がございますので。いかがでしょうか。もう言い尽くされましたでしょうか。

○岡本委員 最初の①番のところでコンベンションの話が出たときに思ったことなんですけれども。昨年、私が学術集会長をさせていただいた学会があったんですが、小さな学会だったら岡山で何とかあったんですけど、3千、5千、1万となってくると、学会長は京都だとか兵庫とかで会場を借りてわざわざ岡山から出て学術集会を開いているという現状があるんですね。

それを何とか既存の施設だとか新たに建てる市民会館だとかをうまく工夫して1万人単位の学会も岡山で開けるというモデルをつくるのが非常に重要と思われましたので、意見として述べさせていただきます。

○越宗会長 ありがとうございます。ほかにはございませんか。

○清板委員 ごく具体的なことなんです。自転車の話がたくさん出ましたが、生活圏も教育圏も駅の西側にもずいぶん開けているわけですが、JRをくぐる道があまり整備されていなくて、少し怖くて危ないというところがありますし、数も少ないと思います。これだけ多くの方が西と東を行き来していて、道をつながなくてはいけないので、その整備が必要なのではないのでしょうか。

それから、歩道の敷石の整備が岡山はちょっと目立つような。ほかの都市はよく知りませんが。そんなことを感じましたので意見を出したいと思います。

○越宗会長 ありがとうございます。よろしいですか。

3 協議事項(2) その他

○越宗会長 それでは、協議事項の2に入りまして、その他ということですが、事務局から何かございますか。

○事務局(門田) 事務局から、今後の開催日程についてあらためて御案内を申し上げます。資料2にもございますように、次回は5月29日の金曜日、第3回は7月29日の水曜

日、第4回は8月20日木曜日、第5回は8月25日火曜日で、いずれも14時からの開会を予定いたしております。御都合が合わない委員の方には大変恐縮でございますが、何とぞ御了承くださいますようお願いいたします。

○越宗会長 という日程でございます。どうぞよろしく願いいたします。次回以降、8月末までに4回にわたって、テーマ別の討議あるいは冒頭説明の重点課題についての討議を精力的に行ってまいりたいと思います。どうぞ、委員の皆様には御理解の上御出席をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

少しお釣りができました。これで本日の議事は終了となるんですけれども、それでは、たっぷり時間がございますので、最後に大森市長からお話をいただきたいと思っております。

○大森市長 今日はどうもありがとうございます。少し時間があるようですので、私も少し感想を言わせていただければと思います。

まずは、産業・経済、観光・交流、農業等の話であります。さまざまなキーワードを提供していただいたなという感じがいたします。前回の都市ビジョンは必ずしもこの産業振興にそれほど議論十分という感じもしないところもあったんですけれども、やはり地域再生、やはりこういう政令市の岡山がこういう経済面で頑張っていないと日本全体がおかしくなってしまうというようなこともあります。そういう面からさまざまな切り口で整備をして一つ一つの政策に結びつけていきたいと思っております。

それから、最後の環境であります。これはESDも昨年、会長以下いろいろなかたちでお話をいただいているわけでありまして。成功したと私も思っているところでありまして、その中の大きな要素が環境の問題だろうと思っております。ここで御意見もありましたけれども、私としてはぜひやはり目標値というものもつくっていき、それをどうやって達成をしていくのか、その中ではまた、今日も御指摘がありました教育の問題、子どもたちからそういう環境の意識付けをしていくというようなことも重要なかなと思っております。プライオリティーとしても相当高く考えていくべきではないかなと思っております。

それから、真ん中の都市・交通の話であります。都市・交通については、これは今日の委員皆さん方、どちらかというコンパクトシティというかたちで方向性はだいぶ一致しているのかなと思っております。

ただ、時々コンパクトシティというのを誤解をされる場合がありまして、すべて中心部に集めていくんじゃないかというようなことをおっしゃる方がいて、郊外部は一体どうなるんだというような感じで捉えられる場合があります。

決して郊外のことを切り捨てるとかそういう性格のものでは全くないわけでありまして、阿部先生がおっしゃっているように、郊外部のやはり拠点づくりというものも非常に大きな要素になり、それをどうやって公共交通機関で結んでいくのかということですから、そういうことをきちっとやっぱり市民の方にわかっていただく努力も必要なかなと思っております。

ります。

あと、泉、藤原委員がおっしゃいましたけれども、こういう施策をいろいろ書いていくと、特に都市・交通とか医療・福祉の話になると相当の財源が必要になってくるので、財源をどうやって捻出をしていくのか、ツケを将来に残すのではないかという議論が出てまいります。

これは全体として捉えていかなきゃいけないわけではありますが、私としては2回予算編成をさせていただきました。その中でやはり1つ意識したのは、財政の調整基金。これは一般家庭でいうと必ずしも目的のないそういう預金であります。その預金については決して減らすことのないようにということで対応させていただいたわけではありますが、得てしてやはり行政というのはどんどん広がるという可能性があることは、そういう恐れがあることは事実でありますので、また、ここの総合計画の場で、どういう歯止めを掛けていくのか、それは先生方もおっしゃった選択と集中ということにもかかってくるんだろうと思うんですが、その議論をどうやって整理していくのかも重要なことで、またその点についても御示唆をいただければと思っております。

今日は非常に多岐にわたる議題でございました。ということで申しわけなく思っておりますけれども、一応11月ということでありまして、夏休み中に3回というのはなかなか委員会としても珍しいなと思っておりますが、どうぞ、将来の岡山市のためによろしく願い申し上げます。今日はありがとうございました。

○事務局（植月） これをもちまして、本日の平成27年度第1回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様、お疲れさまでございました。

閉会